

日本と台湾における E-mail/Facebook/LINE の 使用状況

王敏東*

台湾科技大学 応用外国語学科 教授*

洪綺臨

台湾科技大学 応用外国語学科 学部生

陳怡君

台湾科技大学 応用外国語学科 学部生

李玟霖

台湾科技大学 経営学科 学部生

劉宥成

台湾科技大学 機械工学学科 学部生

要旨

本稿は、日本と台湾における E-mail/Facebook/LINE の使用状況について調査したものである。具体的には、日本人と台湾人各 51 人を対象に E-mail/Facebook/LINE の使用状況についてアンケートを実施し、また 2011 年 7 月から 2019 年 7 月にかけての日本と台湾の論文や新聞から E-mail/Facebook/LINE の使用状況を調査した。Facebook を使用する多くの日本人が最も使用する機能は「いいね！」だという調査結果が出た。E-mail/Facebook/LINE における文字使用について、日本人は台湾人より誤りに厳しく、台湾人は顔文字に対して比較的寛容だ、ということも分かった。日本の論文や新聞では、Facebook/LINE に関しては否定的な要素を取り上げる割合が比較的高いが、台湾では Facebook/LINE についての見方は否定的なものばかりではなく、選挙などの政治活動にも使用されることが多い。

キーワード：使用意識、アンケート、論文、新聞、言語生活

日本と台湾における E-mail/Facebook/LINE の使用状況

一、はじめに

インターネットの出現・普及はわれわれの言語生活¹に大きな影響をもたらしている。総務省が 2017 年末に行った調査によると、日本人の平日のインターネット利用時間の内訳の上位 2 位は「メールを読む・書く」が最も長く 30.4 分、次いで「ソーシャルメディアを見る・書く」が 27.0 分であるという。同調査ではさらに、主なソーシャルメディア系サービス/アプリの利用率では LINE が最も高く 75.8%、次は Facebook 31.9%だとも示されている²。

一方、台湾でも日本と似たような傾向が報告されている。たとえば、劉・林 (2005) では、個人でもビジネスでも台湾では E-mail がすでに主なコミュニケーションの道具になっていると述べられている。また、楊 (2014. 2. 28) では台湾では平均 1100 万人が毎日のように Facebook を使っていると報道されている。なお、胡 (2015: 25) では 66.6%の台湾人が LINE を使用していると報告された。

このように、E-mail/Facebook/LINE は日本人と台湾人の生活にかなり浸透していることが分かる。しかし、E-mail/Facebook/LINE はあくまでも道具にすぎず、その使い方にこそ使用者の意識が反映されるのである。本稿では LINE が現れた 2011 年 6 月³以降 E-mail/Facebook/LINE が日本と台湾の言語社会で

¹ 『デジタル大辞泉』によると、「言語生活」とは「言語の面からとらえた人間の生活。また、人間の生活の中で、話す・聞く・書く・読むの言語にかかわる側面。」という。「ことばが使われる目的としては、客観的な物事についての情報の伝達、感情・感覚の表現、他人を動かそうとする意向の表現、芸術的創作、鑑賞、遊戯、社会的関係の開始・維持・打ち切りに関するものなど、いろいろのものがある。…(中略)…言語生活という概念は、これらさまざまな側面、要素をひっくるめて把握しようとするものである。」(『日本大百科全書』)。「言語学では言語生活そのものの研究は従来あまり行われなかったが、最近では次第に言語が実際に用いられる様相に関心が向けられるようになっている」(『ブリタニカ国際大百科事典 小項目 目事典』)(<https://kotobank.jp/word/%E8%A8%80%E8%AA%9E%E7%94%9F%E6%B4%BB-60472>) (2019. 9. 7 検索)。

² 総務省 (2018 a : 6)。

³ 黄・陳 (2015: 346)、胡 (2015: 27)。ちなみに、Facebook は 2004 年にアメリカの学生マーク・ザッカーバーグが国内の学生向けにサービスを開始し、2006 年に一般に公開され、2008 年に日本語版が公開された(『IT 用語がわかる辞典』

どのように使用されているかを検討してみる。具体的にはアンケート調査と、論文や新聞記事で E-mail/Facebook/LINE が取り上げられた状況をまとめる。日本人と台湾人がそれぞれ E-mail/Facebook/LINE についてどう思うかと、日本と台湾で E-mail/Facebook/LINE がどのように論文や新聞記事などに取り上げられているか、について探究する。調査結果が日台両国のさらなる相互理解に役立つことを期待している。

二、先行研究

E-mail/Facebook/LINE に関する先行研究は以下のようなものがあげられる。

まず、日本側の文献を紹介する。菊池(2018)は、E-mail について、読み手と書き手の立場において、よいメールと悪いメールの要素を探ってみたものである。「件名が書かれている」、「Gmail の名前が本名である」、「宛名が正確に書かれている」、「冒頭に挨拶を書いている」、「日本語を正しく使っている」、「内容が選別されている」、「添付ファイルのことが本文に書かれている」、「依頼事項がある場合期限が書かれている」、「必要に応じ箇条書きにする」、「長過ぎない」などが、調査を受けた人の多くが気にすることを明らかにしている。

Facebook については、チェ(2014)の調査によれば、日本人大学生が Facebook を使用している目的は、学校の友人との連絡のため(76%)、普段会うことが難しい人々との連絡のため(72%)、時間をつぶすため(47%)、ニュースや新しい情報を得るため(35%)、クラブなどのグループ活動に参加するため(28%)、自身の意見や考えを表現するため(16%)、オンライン上の新しい友人を見つけるため(3%)、であるという結果が得られた。E-mail に対して、Facebook は日本人大学生にとって娯乐的・社交的な性質が強いのが分かる。

<https://kotobank.jp/word/%E3%83%95%E3%82%A7%E3%82%A4%E3%82%B9%E3%83%96%E3%83%83%E3%82%AF-13965> (2019/7/31 検索)。E-mail は 1990 年代後期より普及されている。

LINE に関して、加藤(2013)は LINE 使用について高校生 20 名に対して半構造化面接を実施し、LINE の「スムーズなやりとり」、「ローコスト」、「記録性、一覧性」、「確実性」などのいい点と、「通話機能の不便さ」、「通知の煩わしさ」、「個人情報の流出」、「電池消費」などの悪い点を見出した。同調査では、「親しい者だけとのやりとり」という LINE を介する肯定的な経験を抽出したのみならず、「友人、知人の反応の悪さ」、「友人、知人に対する気遣い」、「見知らぬ者との接触」など否定的な経験も明らかにされた(加藤(2013))。

一方、台湾側の研究には以下のようなものがある。呉(2017)は E-mail のマナーについて以下の注意事項をあげている。「件名を空白にしないこと」、「件名は簡潔であること」、「相手に対する適切な呼称を用いること」、「明確に名乗ること」、「絵文字などをむやみに使わないこと」、「内容は正確で簡単明瞭であること」⁴、「字体、書体を適切に利用すること」、「感謝を表すなどの結びの言葉を入れること」、「署名」、「添付ファイルがあれば明示すること」などである。

楊(2018)は 106 名の小学 6 年生を対象に Facebook の使用について調査したものである。友達と交流するため(94.3%)、他人の日常を知るため(55.7%)、クラスメートに宿題を教えてもらうため(53.8%)、写真などをシェアするため(51.9%)、友達をつくるため(27.4%)が、Facebook を使う主な目的だということが明らかにされた。また、彼らが Facebook にひかれる原因として、即時で便利(90.6%)、自分の考えをシェアできる(51.9%)、おもしろい(46.2%)、スタンプがかわいい(29.2%)、などがあげられている。

黄・陳(2015)の、308 名の LINE 使用者を対象とした調査によれば、LINE 使用の主な目的はコミュニケーションで、最も用いられたのが文字だが、スタン

⁴ 場合によっては個条書きにしてもよく、とにかく冗長でないようにすること。

プが気持ちを明確に表せるため、文字＋スタンプの形でやりとりをすることも多くある、という結果が得られた。

これらの先行研究は、本研究が取り扱う課題の研究に有益である。しかし、日台両国における E-mail/Facebook/LINE の使用状況は明らかにされていない。日台両国の人が頻繁に交流している現在、両国人の E-mail/Facebook/LINE に対する基本的な姿勢や使用状況の究明は、両国人の相互理解や、台湾人日本語学習者・日本人中国語学習者の目標言語の学習にとって、早急に解決すべき重要な課題である。

三、研究方法

本稿は E-mail/Facebook/LINE が、2011 年以降日本と台湾の言語社会でどのように使用されているかを検討することを目的とする。

はじめに、日本人と台湾人の E-mail/Facebook/LINE の使用状況を調査する。2019 年 7 月下旬に、「いつから E-mail/Facebook/LINE を使い始めたか」、「E-mail/Facebook/LINE のうちどれを一番多く使っているか」、「何のために使ったか」、「相手は誰か」、「メールまたはチャットのどの部分を重視しているか」などを含む質問を 20 代から 60 代までの 10 人⁵を対象に自由回答してもらった形式の予備調査を行った。この予備調査の結果と、菊池(2018)、チェ(2014)、加藤(2013)、呉(2017)、楊(2018)、黄・陳(2015)を踏まえ、E-mail/Facebook/LINE のそれぞれについて 11 問(選択肢が当てはまるかどうかを選んでもらう形式)の調査票⁶を作った。この調査票を用いて 2019 年 7 月下旬～2019 年 9 月にアンケートを実施した。

また、E-mail/Facebook/LINE が 2011 年以降の日本と台湾の論文や新聞記事

⁵ 男性 4 人と女性 6 人である。そのうち、学生が 4 人で、社会人が 4 人、無職が 2 人(主婦と定年退職者)となっている。

⁶ 日本語と中国語の 2 通りのものを用意した。紙幅の都合で、文末付録 1 は中国語の調査票のみ提示する(質問の答えの選択肢は省略)。詳細は「四、アンケート調査の結果」を参照。

でどのように取り上げられているかを検討する。日本の資料として cinii に収録された論文のタイトルおよび『読売新聞』(全国版)における記事のタイトル、台湾の資料として華藝線上圖書館に収録された論文のタイトルおよび『聯合報』における記事のタイトルを使用し⁷、いずれも 2011 年 6 月 1 日から 2019 年 7 月 31 日に発表されたものを対象とする。

この 2 つの調査結果をあわせて、E-mail/Facebook/LINE が日本と台湾でどのように用いられているかについて探る。

四、アンケート調査

日本人と台湾人を対象としたこの調査は 2019 年 7 月下旬～2019 年 9 月に行った。調査を受けた人(全 102 人)の内訳は表 1 のようになっている。

表 1 アンケート調査を受けた人の内訳⁸

		人数		
		日本人 n=51	台湾人 n=51	計 n=102
性別	男	24	22	46
	女	27	29	56
年齢	20 歳未満	5	4	9
	20～29 歳	11	26	37
	30～39 歳	4	7	11
	40～49 歳	18	3	21
	50～59 歳	6	7	13
	60 歳以上	7	4	11
職業	学生	12	22	34
	公務員	2	1	3
	教師	18	7	25
	商社員	5	6	11
	エンジニア	1	4	5
	医療関係	1	1	2
	定年退職者	0	4	4
	主婦	3	2	5
	その他	9	4	13

以下、紙幅の都合で、調査結果のデータを一々示さないが、日本人と台湾人

⁷ 『読売新聞』は日本の代表的な日刊の全国紙の 1 つであり、世界一の発行量を誇る。『聯合報』を収録している聯合知識庫は世界最大の中国語新聞コーパスである。以上の理由で本研究ではこの 2 紙を使用することにした。

⁸ 調査を実施したのは本文の筆者ならびに筆者の知人である。大学が発行する論文集の読者は教育に携わる人が多いと考えられるため、調査対象は学生と教師をやや多くした。

の E-mail/Facebook/LINE における使用上の特徴的な部分について質問順に述べる。

(一)、E-mail/Facebook/LINE を使用していますか。

今回の調査範囲では、日本と台湾のいずれにおいても 9 割以上の人が E-mail と LINE を使っている。また、E-mail を使っている日本人 (48 人) が台湾人 (46 人) より多いのに対して、Facebook/LINE を使っている台湾人 (Facebook43 人 ; LINE49 人) が日本人 (Facebook34 人 ; LINE47 人) より多いのも分かった。

(二)、いつ頃から E-mail/Facebook/LINE を使用し始めましたか。

台湾人の方が日本人より早い時期から E-mail/Facebook/LINE を使い始めている⁹。

(三)、どの電子端末で E-mail/Facebook/LINE を使用していますか。

日本でも台湾でもほとんどの人はパソコンと携帯の両方で E-mail を使用している。また、携帯で Facebook と LINE を使っている人は、台湾人の方が日本人より多いのも分かった。

(四)、E-mail/Facebook/LINE の使用頻度はどのくらいですか。

日本人と台湾人の E-mail/Facebook/LINE の一日あたりの利用回数は LINE が最も多い。

(五)、E-mail/Facebook/LINE でよく連絡する相手は誰ですか。

E-mail/Facebook/LINE のいずれも、仕事上の取引先、上司、同僚との連絡に使われている。LINE でよく仕事の取引先と連絡する人が、日本人 (13 人) より台湾人 (27 人) の方が多いのが特徴的である。

⁹ 就職以降 E-mail/Facebook/LINE を使用し始めた人は、台湾人より日本人の方が多い。また、小学生の時に E-mail/Facebook/LINE を使い始めた日本人は 2 人、0 人、1 人に対して小学生の時に E-mail/Facebook/LINE を使い始めた台湾人は 12 人、6 人、1 人となっている。

(六)、普段どのような目的で E-mail/Facebook/LINE を使用していますか。

E-mail 使用の目的の上位 1 位が日本人も台湾人も「仕事関係の連絡」(日本人 32 人 ; 台湾人 33 人)であることから分かるように、E-mail は仕事などフォーマルな文章に用いられることが多い。

一方、Facebook 使用の目的の上位 3 位は、日本人では「友達、同級生との連絡」(23 人)、「親戚や友人の様子を知るため」(15 人)、「暇つぶし」(14 人)と、台湾人では「友達、同級生との連絡」(31 人)、「挨拶、社交辞令などの連絡」(25 人)、「親戚や友人の様子を知るため」(25 人)となっている。ちなみに、「暇つぶし」で Facebook を使っている台湾人は 21 人もいる¹⁰。

他方、LINE 使用の目的の上位 3 位は、日本人と台湾人のいずれも「友達、同級生との連絡」(日本人 46 人 ; 台湾人 45 人)、「親戚、家族との連絡」(日本人 42 人 ; 台湾人 43 人)、「仕事関係の連絡」(日本人 22 人 ; 台湾人 28 人)となっている。

(七)、普段 E-mail/Facebook/LINE のどのような機能を使用していますか。

最も多く使用されている E-mail の機能は日本も台湾も「受信」(日本人 48 人 ; 台湾人 45 人)、「送信」(日本人 46 人 ; 台湾人 35 人)と「添付ファイルの送受信」(日本人 41 人 ; 台湾人 29 人)となっている。この 3 つは普通に多用される機能だと見なしてよかろう。また、最も多く使用されている LINE の機能は日本も台湾も「メッセージを送る」(日本人 48 人 ; 台湾人 47 人)、「メッセージを受け取る」(日本人 44 人 ; 台湾人 47 人)であるが、「添付ファイルの送受信」はさほど多く利用されていない¹¹。

一方、日本人に最も多く使用されている Facebook の機能は「いいね！」(27 人)である¹²のに対して、台湾人に最も多く使用されている Facebook の機能は「チャットを送る」「チャットを受け取る」(ともに 26 人)となっている。日

¹⁰ 台湾人の Facebook 使用目的の 4 位にあたる。

¹¹ 使用している日本人は 5 人で、台湾人は 10 人である。

¹² 「いいね！」を利用する台湾人(21 人)より多い。

本人が Facebook の社交的な機能を重んじるのに対して、台湾人は Facebook の連絡の機能を重視している。

(八)、他人から受信した E-mail/Facebook(のチャット)/LINE で気にする点がありますか。

日本人も台湾人も、他人から受信した E-mail/Facebook/LINE で「伝えたい内容が分かりやすく正確に伝えられているか」を気にしている。割合としては台湾の方が日本人よりこの点を気にしている。E-mail/LINE の「誤字やミスプリントがないか」については、日本人の方が気にする人が多い(E-mail 日本人 12 人、LINE5 人 ; E-mail 台湾人 6 人、LINE3 人)。

(九)、E-mail/Facebook/LINE 内での顔文字などの使用についてどう思いますか。

E-mail/Facebook/LINE 内での顔文字について「親近感が湧く」と「簡潔で便利」だと思う台湾人が日本人より多い。つまり、台湾人は顔文字に対して比較的寛容だと分かる。

(十)、E-mail/Facebook(のチャット)/LINE の文章を書く際、どういう点に注意して書きますか。

E-mail を書く際、日本人が最も注意して書く点の上位 3 位は「伝えたい内容が分かりやすく正確に伝えられているか」(37 人)、「件名の有無」「誤字やミスプリントがないか」(ともに 35 人)で、台湾人がよく注意して書く点は「受信者の名前が正しく記されているか」(41 人)、「件名の有無」(37 人)、「誤字やミスプリントがないか」「伝えたい内容が分かりやすく正確に伝えられているか」(ともに 31 人)となっている。

Facebook(のチャット)を書く際、日本人が最も注意して書く点の上位 3 位は「伝えたい内容が分かりやすく正確に伝えられているか」(18 人)、「誤字やミスプリントがないか」(12 人)、「礼儀正しいか」(10 人)である。それに対して、台湾人は Facebook(のチャット)においては「誤字やミスプリントがな

いか」をさほど注意していない¹³。また、LINE の場合も同じく、台湾人より日本人の方が「誤字やミスプリントがないか」を気にする傾向がある(付録 2 図を参照)。

(十一)、E-mail/Facebook(のチャット)/LINE を使用する際、便利だと思う点はどれですか。

E-mail を使用する際、便利だと思われる点の上位 3 位は日本も台湾も「添付ファイルが付けられる機能」(日本人 37 人；台湾人 34 人)、「返したい時に返せる(受け取っていないふりもできる)」(日本人 34 人；台湾人 27 人)、「履歴/内容の検索が可能」(日本人 25 人；台湾人 27 人)である。

一方、「メッセージを返したい時に返せる(受け取っていないふりもできる)」は 14 人の日本人が Facebook の便利なところの 3 位として選んでいる¹⁴。この点に関して便利だと考える台湾人は、僅か 7 人のである。

他方、「スタンプや顔文字が多彩」が最も多くの日本人(31 人)に LINE の便利な点だとあげられているのに対して、最も多くの台湾人(44 人)に LINE の便利な点としてあげられているのは「受送信にタイムロスがない」である。

五、E-mail/Facebook/LINE が日本と台湾の論文や新聞記事で取り上げられている状況

E-mail/Facebook/LINE が日本と台湾の論文や新聞記事でどう取り上げられたかを検討するため、日本の cinii に収録された論文と、『読売新聞』における記事、そして台湾の華藝線上圖書館に収録された論文と『聯合報』における記事を資料として調査する。具体的には、タイトルに E-mail/Facebook/LINE が含まれた論文・新聞記事をあつめて、E-mail/Facebook/LINE が日本と台湾でどのように使用されているかを

¹³ 「誤字やミスプリントがないか」は 9 人のみである。

¹⁴ 1 位は「Message のメッセージが自動で出てくる機能(たとえばパソコン上で FB に連結している場合)」(16 人)で、2 位は「受送信にタイムロスがない」(15 人)である。

分析する。

(一)、表記から見た E-mail/Facebook/LINE

表記により、同じ言葉でもイメージが変わることがある。洋語起源の場合は、アルファベットか受容地の文字で表記するか、さらに辞書に収録されているか否かが定着度にも反映する。E-mail/Facebook/LINE を示すのに、日本語にも中国語にも異表記を含めていろいろな呼称がある。代表的な辞書の見出し語として以下のようなものがある(表 2)。

表 2 辞書に収録された E-mail/Facebook/LINE¹⁵

		日本語(コトバンクに含まれるもの)	中国語
E-mail	E-mail	ASCII. jp デジタル用語辞典、DBM 用語辞典、大辞林(第三版)、デジタル大辞泉	國家教育研究院 雙語詞彙、學術名詞暨辭書資訊網
	e-mail	ASCII. jp デジタル用語辞典、ブランド用語集、大辞林(第三版)、デジタル大辞泉	國家教育研究院 雙語詞彙、學術名詞暨辭書資訊網
	E mail	×	國家教育研究院 雙語詞彙、學術名詞暨辭書資訊網
	E メール	パソコンで困ったときに開く本	×
	e メール	ASCII. jp デジタル用語辞典、	×
	イーメール	DBM 用語辞典、デジタル大辞泉、IT 用語がわかる辞典	×
	電子メール	ASCII. jp デジタル用語辞典、パソコンで困ったときに開く本、デジタル大辞泉、百科事典マイペディア、ブランド用語集、IT 用語がわかる辞典、大辞林(第三版)、ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典、日本大百科全書、精選版 日本国語大辞典	×
	電郵	×	國家教育研究院 雙語詞彙、學術名詞暨辭書資訊網

¹⁵ 2019 年 8 月上旬に検索。

			網
	電子郵件	×	教育部重編國語辭典
	電子信件	×	教育部重編國語辭典
	電子郵遞	×	教育部重編國語辭典
	電子郵件系統	×	教育部重編國語辭典
	網路信	×	教育部重編國語辭典
	網路信件	×	教育部重編國語辭典
Facebook	Facebook	知恵蔵、パソコンで困ったときに開く本、デジタル大辞泉、IT用語がわかる辞典、日本大百科全書	國家教育研究院 雙語詞彙、學術名詞暨辭書資訊網
	Facebook	×	國家教育研究院 雙語詞彙、學術名詞暨辭書資訊網
	FB	デジタル大辞泉	國家教育研究院 雙語詞彙、學術名詞暨辭書資訊網
	フェイスブック	ASCII.jp デジタル用語辞典、パソコンで困ったときに開く本、朝日新聞掲載「キーワード」、百科事典マイペディア、マーケティング用語集、IT用語がわかる辞典、ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典、日本大百科全書	×
	エフビー	デジタル大辞泉	×
	臉書	×	國家教育研究院 雙語詞彙、學術名詞暨辭書資訊網
LINE	LINE	百科事典マイペディア、知恵蔵、パソコンで困ったときに開く本、朝日新聞掲載「キーワード」、日本大百科全書、デジタル大辞泉	×
	Line	デジタル大辞泉	×
	ライン	百科事典マイペディア、デジタル大辞泉	×

表2で見られたように、E-mail/Facebook/LINEを表す際、日本でも台湾でもアルファベットで表記することがある。しかし、大文字か小文字かによる紛らわしさが見られた。また、日本語ではE-mail/Facebook/LINEを音訳して片仮名で表記したものがあり、しかもそれらが辞書に収録され

ている¹⁶のに対して、台湾では E-mail/Facebook/LINE を翻訳して漢字で表記されたものはあっても辞書に収録されているとは限らない。なお、翻訳のしかたとして、日本語ではすべて音訳法を採用したが、中国語では意識法がメインであることも分かった。

(二)、論文・記事から見る E-mail/Facebook/LINE

この節ではまずタイトルに E-mail/Facebook/LINE が含まれる論文・記事の数について述べる。次に論文・記事の内容について検討する。

1、論文・記事の数

表 2 に提示した各表記の他、台湾では「Line」、「頼」で表すこともある¹⁷ので、今回は「Line」、「頼」がタイトルに含まれる論文・記事も調査対象とした。調査結果は表 3 の通りである。

表 3 タイトルに E-mail/Facebook/LINE が用いられた論文・記事の数

	日本						台湾					
	cinii に収録された論文のタイトル数			『読売新聞』（全国版）における記事のタイトル数			華藝線上圖書館に収録された論文のタイトル数			『聯合報』における記事のタイトル数		
	E	F	L	E	F	L	E	F	L	E	F	L
2011 年	31	179	0	0	9	0	7	12	0	3	143	0
2012 年	40	132	7	1	62	7	1	24	1	8	319	6
2013 年	57	78	42	0	27	49	1	25	3	9	216	59
2014 年	44	55	78	0	18	48	0	23	3	7	238	234
2015 年	31	43	39	0	10	36	0	31	8	11	257	162
2016 年	37	44	49	1	19	43	1	23	4	16	161	79
2017 年	32	46	91	1	15	35	1	22	10	6	63	46
2018 年	30	76	85	0	81	33	0	26	7	1	82	43
2019 年	11	18	43	0	47	17	0	8	3	1	33	22
計	313	671	434	3	288	268	11	194	39	62	1512	651

表 3 の日本の欄では以下のことが分かる。まず、E-mail がタイトルに含まれ

¹⁶ 王(2018)の調査によると、当時 LINE は、日本のコトバンクに含まれる辞書と台湾の『教育部重編国語辞典』のいずれにも含まれていなかったという。しかし、今回の調査では、多くの日本語の辞書に「モバイル端末向けのメッセージングアプリ。グループチャット機能や、ピアツーピアと VoIP 技術を用いた音声通話機能などがある」の意味の「LINE」・「ライン」が収録されるようになってきているのに対して、台湾の辞書には相変わらずこの意味の「LINE」・「ライン」が見当たらない、と分かった。

¹⁷ 王(2018)。

た論文は数としてさほど多くない。Facebook を含むものは 2011 年と 2012 年に 3 桁にも達するほど多かったが、2013 年以降は数が減少している。LINE を含む論文の数は 2012 年にはまだ少なかったが、2013 年に急増している。また、新聞記事の場合もタイトルに Facebook が含まれる記事が数として最も多いのに対して E-mail が含まれる記事が最も少ない。

一方、台湾では、E-mail がタイトルに含まれた論文・新聞記事は今回の調査範囲内では少ないことが分かった。それに対して Facebook がタイトルに含まれた論文・新聞記事は非常に多い。LINE が含まれた論文・新聞記事の数は E-mail と Facebook の中間にある。

2、E-mail/Facebook/LINE の内容

この節は日本、台湾、それぞれについて E-mail/Facebook/LINE の順で小節に分けて述べる。

(1)、日本の E-mail

2012 年に「電子メールはあと 2 年で終わる」(『新潮』45)という文章が現れたものの、E-mail は今でも「終わって」いないし、E-mail がタイトルに含まれる論文の内容もビジネス、教育、医療、法律など広範囲に及んでいる。しかし、今回調査したいくつかの E-mail を表す語形(表記)は『読売新聞』の新聞記事に滅多に用いられていない。

(2)、日本の Facebook

2011 年に「フェイスブック大旋風」(2011.2『エコノミスト』)¹⁸、「特集 フェイスブックが動かす世界」(2011.3『アエラ』)など Facebook に関するいくつかの雑誌の特集がある他、「フェイスブック、独走への次の一手」(2011.1『週刊東洋経済』)、「2011 年はフェイスブックの年になる!？」(2011.1『調

¹⁸ 「覇権交代 5 億人超がつながる実名交流サイト 新たなネット覇者へ」、「世界が変わる」などの報道が載せられている。

査情報』)、「ソーシャルメディア ついに来たフェイスブック元年 日本企業の活用も続々と進む (特集 総予測 2011) — (消費・流行・文化)」(2011.12『週刊ダイヤモンド』)など、まるで Facebook 時代の到来を宣言したような報道も見られた。また、Facebook が会社などの集客、授業および課外活動、大学生の採用活動、医療、東日本大震災に使われた報告も散見された。一方、グーグルをライバル扱いにしているとの記事も見られた¹⁹。

2011 年に引き続き、2012 年にも Facebook が会社などの集客、教育、大学生の採用などに活用されている記事・報道が多く見られる。また、株など経済やビジネスにかかわる Facebook の新聞記事が多く見られた。なお、首相も Facebook を使っている²⁰。一方、「危ないね! facebook」(2012.2『Newsweek』)²¹や「フェイスブックの裏側 10 億人を丸裸にする巨大ネットワークの正体 フェイスブック」(2012.3『週刊東洋経済』)²²といった雑誌の表紙も見られた²³。また、警察や消防団員が、火事で人が死んだといったような職務上入手した情報を Facebook に書き込むという軽率な行為に関する新聞記事も見られた²⁴。それに対して、警察の捜査本部が Facebook で捜査情報を公開するようになった²⁵。

2013 年には、インターネットを使った選挙運動が参院選から解禁されたた

¹⁹ 「フェイスブック 無料テレビ電話 グーグルに対抗」(2011.7.7『読売新聞』)、「グーグルプラス本格展開 フェイスブックを迫撃」(2011.9.21『読売新聞』)。

²⁰ 「首相 フェイスブックで情報発信 「ぶら下がり」には応じず」(2012.12.30『読売新聞』)。

²¹ 「ユーザーが支払う無警戒の代償」、「君を丸裸にするフェイスブックの世界へようこそ」、「偽ザッカーバーグから利用者の皆様へ」などの記事が載せられている。

²² 「要注意! 狙われるフェイスブック 新型ウイルスが増殖中」、「プライバシー軽視で大モメ 怒る EU、無策の日本」などの記事が載せられている。

²³ 「フェイスブック 実名で近況 悪用注意 サイバー攻撃 招く恐れ」(2012.2.25『読売新聞』)、「[論点] フェイスブック 個人情報の自衛必要 岡村久道氏(寄稿)」(2012.10.3『読売新聞』)などのような記事も見られた。

²⁴ 「山梨県警鑑識課長が火事現場情報アップ フェイスブックに」(2012.2.10『読売新聞』)、「消火活動中 フェイスブック 田川の消防団員」(2012.6.13『読売新聞』)。

²⁵ 最初は 2012 年の年末である(「PC 遠隔操作 犯行予告など FB で公開 情報呼びかけ 捜査本部」(2012.12.21『読売新聞』))。

め、議員たちが Facebook の操作を習いはじめた²⁶。一方、フェイスブックで具体的な学校名を挙げて成績を比較した論評を書き込んだ町長の言動に関する新聞記事があった²⁷。さらに、少年刑務所看守が受刑者名入りのシャツをフェイスブックに投稿したことがあった²⁸。

2014 年には、エボラ出血熱感染者に関する会議に出席した病院長が、Facebook に会議の様子を投稿する際「エバラは焼き肉のタレ」「ズボラは私」などと書き込んでいたという不祥事が新聞記事に取り上げられている²⁹。

2016 年には、「参院選公示 18 歳の 1 票注視 FB や動画でアピール 陣営・選管」(2016. 6. 22『読売新聞』)に示されたように、若者をターゲットにした Facebook での宣伝に関する記事が見られた。

このように、Facebook は 2012 年より、善用、悪用された記事・報道が毎年のように見られている。使用者に関しては「[今どきの男たち] (3)フェイスブック はまる中年(連載)」(2016. 7. 22『読売新聞』)に見られるように、当時 Facebook は中年者に愛用されたという。また、2017 年の「台湾の政治とソーシャルメディアに関する研究—Facebook を中心として—」という、台湾の政治の Facebook とのかかわりについて論じた論文は日本の大学の出版物で発表された。

(3)、日本の LINE

今回の調査範囲内では、2011 年には LINE をテーマにした論文・記事は見当たらない。しかし、2012 年になると、「「フェイスブック超えたい」 「LINE」と KDDI 提携 正式発表」(2012. 7. 4『読売新聞』)などのような、LINE が Facebook に追いつこうとしている様子を報じた文章が見られた。性質・内容としては、

²⁶ 「フェイスブック 手取り足取り… ネット選挙 まず研修 各党大忙し」(2013. 3. 20『読売新聞』)。

²⁷ 「フェイスブックで成績比較 徳島・石井町長 学テ、校名挙げ」(2013. 12. 12『読売新聞』)。

²⁸ 「受刑者名入りシャツ フェイスブック投稿 奈良少年刑務所看守懲戒」(2013. 12. 20『読売新聞』)。

²⁹ 「福井県立病院長 FB 投稿を削除 エボラ熱関連で」(2014. 8. 16『読売新聞』)。

LINE 社長のインタビュー(2012. 9. 1「interview コミュニケーションの質を高めたい LINE を”信頼してもらえる基盤”に：NHN Japan 代表取締役社長 森川 亮」『日経コミュニケーション』)や、若者の使いぶり(2012. 9「特集 徹底分析 恋愛、友だち、親子関係から、ニコ動、LINE まで… イマドキ高校生白書 2012」『Aura』)、さらに犯罪に利用されたもの(2012. 10「大金詐取から援助交際まで スマホ(高機能携帯電話)「無料サービス」に溺れるな!：「LINE」の通話とメール無料が若者から中高年に広がる」『Themis』)などがある。

2013 年になると、若者の LINE 使用についての学術的な論考³⁰が見られるようになった。また、「無料アプリで収益を上げるヒミツ：LINE とガンホーを焦点に」(『経済論集』16)、「企業活用最前線 (特集 日本発のソーシャルメディア LINE 大爆発!)」(2013. 1. 19『週刊東洋経済』)など、LINE 社が経済界に与える影響、のような、経済やビジネスにかかわる LINE の雑誌記事が多く見られた。なお、犯罪に悪用された LINE に関する新聞記事は増える一方である³¹。

2014 年に入ってから、タイトルに LINE が取り上げられた論文・文章の性質内容は 2013 年とあまり変わらない。たとえば LINE が善用された例に、「「ななつ星」クルー奮闘 熊本地震発生時 LINE 使い食材調達や乗客安否伝達」(2016. 7. 15『読売新聞』)、「いじめ相談 LINE に窓口 大津市 市内中学生に」(2017. 8. 8『読売新聞』)などがあり、LINE が悪用された例に「振り込め詐欺 「受け子集めろ」 中国から LINE 指示」(2014. 10. 23『読売新聞』)、「海自 検定でカンニング 12 人処分 問題、LINE で拡散」(2017. 8. 29『読売新聞』)、「LINE

³⁰ 加藤千枝(2013)「青少年の LINE 利用の実態に関する探索的研究：高校生の LINE 利用に伴う肯定的・否定的経験に基づいて」『社会情報学会(SSI)学会大会研究発表論文集』、植田康孝(2013)「コミュニケーションを求める大学生気質～無料通話アプリ「ライン(LINE)」の急拡大～」『江戸川大学の情報教育と環境』10 など。

³¹ たとえば「小学生への暴行撮影 ライン通じ動画送信 神奈川の中学生」(2013. 2. 6『読売新聞』)、「広島死体遺棄 「LINE で悪口言われた」 容疑の少女 母親に説明」(2013. 7. 16『読売新聞』)など。

や電話で捜査情報漏らす 収賄容疑の警官」(2018. 7. 22『読売新聞』)などがある。また、LINE の使い道が疑問視されたものとして、「茨城新聞 架空人物を掲載、謝罪 LINE で取材、見抜けず」(2014. 10. 25『読売新聞』)、「[発言小町] 遅刻・欠勤 LINE で連絡! ?」(2015. 6. 26『読売新聞』)がある。いずれにせよ、年賀状を LINE で送り³²、サラリーマン川柳に LINE が題材として登場し³³、日常生活において主に LINE でやりとりをしているからまともに電話での連絡が苦手な若者新入社員が増え³⁴、「LINE 疲れ」の人が現れた³⁵、といった、LINE が引き起こした現象が見られた。

(4)、台湾の E-mail

台湾では、2011 年には E-mail が含まれる論文の多くは情報工学関係の論文である。また、E-mail を選挙に活用する論考も見られた。2016 年には中国語教育に関する論考、2017 年には E-mail の書き方を論ずるものが見られた³⁶。

一方、E-mail(の内容)が犯罪になる証拠の記事が 2012 年以降散見された。たとえば、「「三分鐘可以嗎」 曖昧電郵被起訴」(2012. 5. 29『聯合報』)、「電郵恐嚇女老師 大學教授判拘役」(2013. 5. 3『聯合報』)、「林克穎電郵「願賠 60 萬」 變呈堂證供」(2014. 6. 13『聯合報』)、「色情網站難抓 用電郵逮到他」(2015. 8. 17『聯合報』)、「Email 罵人狗官 算公然侮辱」(2016. 5. 22『聯合報』)、「電郵揭穿 何壽川另涉詐領董事出席費」(2017. 6. 18『聯合報』)などである。

(5)、台湾の Facebook

Facebook に関しては、2011 年には集客、人間関係や使用者心理などに関する論文が見られた。2012 年にはプライバシー、広告効果、依存、教育への活用など Facebook をめぐるいろいろな議論が展開された。2013 年には人間関係

³² 「LINE 友達に年賀状送ろう 通販でまとめ買いも可能に」(2014. 8. 28『読売新聞』)。

³³ 「サラリーマン川柳 「LINE」も題材」2015. 2. 24『読売新聞』。

³⁴ 「[生活調べ隊] 新入社員 電話対応が関門 日常は LINE 少ない通話」(2017. 4. 11『読売新聞』)。

³⁵ 「[人生案内] LINE での返事に重圧」(2017. 7. 26『読売新聞』)。

³⁶ 前節「先行研究」で触れた呉(2017)の他、たとえば邱(2016)は E-mail の文体の特徴を見出し、中国語教育に応用しようとした論考である。

や使用者心理に関する論考が次から次へと発表された他、選挙と Facebook との関係を論じたものが見られた。2015 年には、文学作家の Facebook についての考察や、Facebook を緊急時に正式な医療コミュニケーションに利用する可能性の検討が見られた。2016 年には、Facebook 上のコミュニケーション術、Facebook に載せた保健情報の閲覧状況を分析した論文があった。いずれにせよ、使用者心理についての考察は従来台湾における Facebook に関する研究の主な主題の 1 つであることが分かった。

一方、新聞記事の方は「互動快 揪團快 facebook 變現代社區報」(2011. 7. 5『聯合報』)に示されたように、Facebook は 2011 年当時すでに台湾における企業や有名人に広く利用されていた³⁷。使用者は「國高中生不用臉書「遜掉了」」(2012. 2. 4『聯合報』)、「從開機學起 80 歲阿嬤玩臉書」(2011. 12. 16『聯合報』)でも分かるように、中学生から高齢者まで広範囲に渡る³⁸。使用目的は個人個人間の連絡の他、企業や、政治家などの有名人の宣伝が含まれる。Facebook はさらに、教育³⁹、自殺を図ろうとした人を踏切内からの救出⁴⁰や、犯罪証拠の収集⁴¹などにも役立った。2013 年には、新年の挨拶に Facebook が多く利用されるようになった⁴²。しかし、この年に若者の「Facebook 疲れ」現象が現れ

³⁷ たとえば、「PEUGEOT Taiwan Facebook 按「讚」並分享 抽限量 PEUGEOT 好禮」(2011. 10. 31『聯合報』)、「劉偉仁抗癌 總統臉書打氣」(2011. 6. 18『聯合報』)、「快上勞保局臉書 按讚」(2011. 6. 29『聯合報』)などがある。

³⁸ しかし、13 歳以上登録可能という Facebook の規定にあわせるため、年齢をごまかし使用している小学生がかなりいるという報道がある(2012. 7. 4「8 成 5 學童 用假年齡、假名玩臉書」『聯合報』)。さらに、小学校や幼稚園の中には、連絡の道具として Facebook を指定するところもあるという(2014. 4. 19「臉書禁 13 歳以下…幼稚園要童打卡」『聯合報』)。

³⁹ 「英語課傳臉書 學童賣力博讚」(2013. 5. 4『聯合報』)など。

⁴⁰ 「臉書留訊想死 警查共同好友救回」(2012. 4. 27『聯合報』)、「男燒炭 po 臉書 網友通報救活」(2012. 5. 30『聯合報』)など。

⁴¹ 「爺奶遭撞 孫臉書搜尋逮兇」(2011. 7. 8『聯合報』)、「無名屍特徵 警 PO 臉書籲協尋」(2011. 7. 17『聯合報』)など。

⁴² 「跨年祝福 App、臉書當道 打趴簡訊」(2013. 1. 2『聯合報』)。また、台湾人は大晦日の過ごし方(写真)を Facebook にアップロードするのがとくに好きだとも報道されている(2015. 11. 19「跨年夜 台灣臉書最忙碌」『聯合報』)。

た⁴³。

2014 年には、Facebook が高齢者や在台外国人にも人気があるのが分かった⁴⁴。この勢いに抗えず、伝統のあるサイトの中にも休止に追い込まれたものがある(2014. 11. 27「不敵臉書 台灣鐵道網關站」『聯合報』)。Facebook の使用時間に関しては、「政大生發起 戒臉書 每天只上 30 分鐘」(2014. 5. 9『聯合報』)を見ると、当時台湾の大学生は毎日 30 分以上の時間を Facebook に使っていたと推測される。Facebook が使えなくなった時に孤独に陥ったり焦ったりした人さえいるという(2014. 6. 20「臉書掛點 你我焦慮孤愁…」『聯合報』)。Facebook からのこのような悪い影響を受けないため、Facebook を削除し、勉強に専念して、公務員試験に合格した人がいる⁴⁵。

2015 年には、Facebook のお陰で、急診の患者を短い間にスムーズに転院させられたエピソードがあった⁴⁶。一方、Facebook が犯罪に利用されたこともあった⁴⁷。Facebook 上の人気はどのくらい真実を反映するかとの疑問もある⁴⁸。

2016 年には、Facebook が政治や選挙に用いられているという記事が依然として非常に多かった。また、被災地の図書館への図書寄付⁴⁹、ダイエットをしている人たち同志の励まし合い⁵⁰、八百屋による野菜に関する知識の紹介⁵¹など、Facebook は利用範囲を更に広げていた。一方、Facebook におけるいじめが多いと報道されている⁵²。そのためか、「少臉書多讀書 擁抱組織化智慧」

⁴³ 「臉書使用者 逾億不是人」(2013. 5. 19『聯合報』)。ちなみに、上司に Facebook の友達になることを強要され困っている日本人がいるという報告もある(2013. 4. 24「老闆加我臉書…日人好困擾」『聯合報』)。

⁴⁴ 「老人大學 臉書課爆滿」(2014. 2. 19『聯合報』)、「樂齡學電腦 爺奶讚臉書好用」(2014. 11. 13『聯合報』)、「臉書認識眾姊妹 印媳不再孤單」(2014. 12. 22『聯合報』)。

⁴⁵ 「刪掉臉書、LINE 看書更專注」(2014. 7. 13『聯合報』)。

⁴⁶ 「急診婉君幫忙 臉書轉診 10 分鐘搞定」(2015. 2. 8『聯合報』)。

⁴⁷ 「臉書賣毒 私訊變成暗語」(2015. 10. 23『聯合報』)など。

⁴⁸ 「洗版臉書 反映多少真實？」(2015. 11. 12『聯合報』)。

⁴⁹ 「臉書募書千冊 填滿災後圖書館」(2016. 8. 20『聯合報』)。

⁵⁰ 「靜宜減重班 臉書監督兼打氣」(2016. 2. 6『聯合報』)。

⁵¹ 「臉書貼蔬菜知識 菜販銷售增 3 成」(2016. 9. 10『聯合報』)。

⁵² 「兒少網路霸凌 93%在臉書、推特」(2016. 3. 11『聯合報』)。

(2016. 1. 28『聯合報』)とあるように、Facebook(中国語で「臉書」)でなく、組織化されている本当の book(本；中国語で「書」)の方こそ大事だとの呼びかけが見られた。

2017 年には、Facebook が地方と都市部との距離を縮める重要な道具になるとの意見が見られた⁵³。なお、日本人教師が台湾人学生にお守りを送ろうとした時に住所を間違えたが、Facebook のお陰で無事届けることができた、というエピソードもあった⁵⁴。

2019 年には、県民が Facebook で県に対する苦情を書き込んだら、県が 4 時間内で返事する、という県民へのサービスが現れた。また、有名人や店の Facebook が乗っ取られるという事件が発生した。

このように、他人を侮辱したり、暖かい物語をシェアしたりすることは毎年のように Facebook がタイトルに含まれる新聞記事に多々見られた。またとくに台湾では選挙などの政治活動に多用されている⁵⁵。大統領をはじめとして Facebook を使っている官僚や議員が多い。Facebook を使うことで、人気を高めたり当選に役立てたりしたという⁵⁶。

(6)、台湾の LINE

LINE については、2011 年の論文や新聞記事は見当たらない。2012 年より LINE のデザイン(主にスタンプ)に関する論考が見られた。一方、新聞に関しては、2012 年に LINE が政府機構⁵⁷や学校教育⁵⁸に使われたという記事の他、自殺を図ろうとした人を LINE で助けた⁵⁹、といった記事があった。2013 年には、家出

⁵³ 「親子 Fami 舞 PO 臉書 助偏鄉秘密基地」(2017. 3. 31『聯合報』)。

⁵⁴ 「日師寄祝福 郵差靠臉書找到主人」(2017. 4. 19『聯合報』)。

⁵⁵ 「臉書、LINE… 選戰網軍先開打」(2013. 11. 18『聯合報』)、「抓緊首投族臉書熱播 LINE 在一起」(2015. 11. 28『聯合報』)など。

⁵⁶ 「臉書直播拚選票 比上電視有效」(2016. 1. 2『聯合報』)、莊・金(2019)。

⁵⁷ 「市府有 LINE 了 放颱風假報你知」(2012. 11. 6『聯合報』)。

⁵⁸ 「新光高中師生 靠 LINE 修作品」(2012. 12. 23『聯合報』)。

⁵⁹ 「吞藥輕生 LINE 道別 友報警救人」(2012. 8. 4『聯合報』)。

の少女を見付けたり⁶⁰、LINE の内容が犯罪の証拠となったり⁶¹、LINE 使用による個人情報の流出が危惧⁶²されたりした記事が見られた。LINE による詐欺事件の多さにより、絶対信じてはいけない LINE の内容として「あなたが来なかった晩に撮った写真です。みんな盛り上がってて、私はさんざん・・・」、「(これは私が)〇〇場所で撮った写真です。どれが一番きれいだと思いますか。」、「「お久しぶり。私のこと覚えている？」などが報道されている⁶³。それに対して、言葉が不自由な人のために、LINE で警察を通報できるようになった⁶⁴。しかし、情報漏れを防止するため、犯人逮捕など重大の勤務を行う時には LINE の使用が禁じられている⁶⁵。

2014 年になっても、LINE は相変わらず犯罪に悪用されており、水商売の客集めの道具⁶⁶やギャンブル⁶⁷にも利用されている。その一方で、交通状況のお知らせ⁶⁸や社会教育⁶⁹にも活用されている。また、地方政府の政策の周知⁷⁰や選挙活動⁷¹にも LINE が使われている。なお、新世代をターゲットとして文学作品を LINE に載せること⁷²、クリスマスの挨拶が伝統的なクリスマスカードから LINE に移行していること⁷³、LINE による電子訃報の出現⁷⁴、高齢者が LINE を楽しんでいること⁷⁵や、思春期の娘と緊張の関係をやわらげたこと⁷⁶なども

⁶⁰ 「臉書+LINE 警找回蹺家少女」(2016. 3. 5『聯合報』)。

⁶¹ 「偷情酒店小姐 LINE 一下露餡」(2013. 2. 25『聯合報』)など。

⁶² 「留 ID 送 LINE 貼圖？ 小心個資曝光」(2013. 2. 12『聯合報』)。

⁶³ 「LINE 訊息 你不能相信的 10 句話」(2013. 11. 17『聯合報』)。

⁶⁴ 「金門增 LINE 報案 方便痞啞」(2013. 3. 14『聯合報』)。

⁶⁵ 「LINE 攻堅恐洩密 警重大勤務禁用」(2013. 6. 16『聯合報』)。

⁶⁶ 「應召站科技化 用 LINE 傳照攬客」(2014. 1. 24『聯合報』)。

⁶⁷ 「趕流行 六合彩簽賭站 LINE 下單」(2014. 4. 3『聯合報』)。

⁶⁸ 「宜蘭 e 車隊成立 LINE 傳送路況」(2014. 2. 22『聯合報』)。

⁶⁹ 「學子打工自保 LINE 元素上勞權課」(2014. 2. 25『聯合報』)。

⁷⁰ 「市府 LINE 起來 政策資訊馬上看」(2014. 9. 11『聯合報』)。

⁷¹ 「LINE 打選戰」(2014. 5. 7『聯合報』)。

⁷² 「純愛、恐怖、推理…點開 U Story LINE 讀輕文學」(2014. 11. 6『聯合報』)。

⁷³ 「都用 LINE 祝福… 耶卡銷量剩一成」(2014. 12. 24『聯合報』)。

⁷⁴ 「告別式轉型 LINE 訃文變多了」(2014. 12. 9『聯合報』)。

⁷⁵ 「樂齡長者滑手機 我也會 LINE」(2014. 1. 17『聯合報』)。

⁷⁶ 「透過 LINE 彌補親情」(2014. 11. 7『聯合報』)。